

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成30年12月30日

事業所名 ハートピア出雲スマイル

		チェック項目	はい	いいえ	どちらとも 言えない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	1		訓練士が2名いるため、訓練が重なる時は別の場所で訓練を実施したり、時間をずらしながら訓練ができるように工夫している。	
	2	職員の配置数は適切である	3	3	1	子どもの状況に応じて人員配置をしている。 有償ボランティアにも支援内容の情報共有をし、統一した支援を図るようにしている。	国の規定では配置職員数は足りているが、実際は日常生活動作に介助を要する子どもが増えてきているため、安全面を考慮すると今の配置職員数では足りず、加えてパート職員や有償ボランティアを置く。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7			アコーディオンカーテンで部屋を仕切り、集まりや食事、制作活動の場等、場面事に分かりやすくしている。 また集まり空間は集中しやすいように掲示物などは貼らないようにしている。	自由遊びの時は様々な遊びをしているため、遊びごとにスペースを仕切ることが難しい。もう少し遊びの空間を構造化できるとよい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	2		運動会練習や鬼ごっこなどのルールのある遊びを行なう時は、放課後等デイサービスの遊戯室を使用している。	限られた広さ、間取りなので、静と動、個性など活動に合わせたスペースに工夫をしていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	2	1		職員の勤務時間がバラバラであるため、目標設定や振り返りの時間が取りにくい。今後、伝えきれないことは伝達ファイルを利用し、書面で伝えるようにしていく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		1		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	3	1		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	3	1		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		1		
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7			定期的に個別支援計画書を作成する為の会議を行なっている。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1		他機関から発達検査の結果など子どもの情報を提供してもらっている。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6		1		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7				
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		1	様々な職種を交えた支援会議等で主の活動プログラムや支援内容について検討や見直しを行なっている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		2	支援会議等で主の活動プログラムや支援内容について検討や見直しを行なっている。	季節や状況に合わせた活動内容が十分に行なえていないため、今後定期的に会議等で細かな活動プログラムを検討していく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7			子どもの状況に応じて重点的に取り組む課題がある場合は個別訓練を実施している。	

関係機関や保護者との連携	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	1	必要に応じて関わるスタッフ同士で情報を共有し、交替の場合にも引き継ぐことに留意している。	支援開始前に特別な支援や対応が必要な子どもに関して全員での情報共有は不十分であるため、連絡ミスがないように伝達ファイル等で確認を行なっていく。		
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	3		職員の勤務時間がバラバラであるため、支援内容などの振り返りの時間が取りにくい。伝達ファイルを利用し、書面で伝え共有するようにしていく。		
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			支援内容についての評価を記録にも記載するようにしている。		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7			定期的に個別支援計画書を作成する為の会議を行なっている。		
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			会議内容に合わせて内容に精通した職員が参加している。		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7			家族や子どもの状況に合わせて必要な情報を受けたり、提供したりしている。		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	7			家族や子どもの状況に合わせて必要な情報を受けたり、提供したりしている。支援ファイルがある場合は情報を共有している。		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	6	1		家族や子どもの状況に合わせて必要な情報を受けたり、提供したりしている。		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7			サポートブックを保護者と作成し、園に渡したり、会議や見学(訪問)を通して情報共有を行なっている。		
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7			サポートブックを保護者と作成し、入学前に学校へ申し送りを行なっている。		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6		1	他事業所への見学やケース会議や連携ノートなどで助言を受けている。また、専門機関の研修に参加している。		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	3	1		ウォークラリーなど地域の行事を通して地域の子どもの交流はあるが、地域の幼稚園や保育園との直接交流はない。今後、在宅児を中心に地域の幼稚園や保育園との交流の場を検討していく。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	4	1		必要に応じて自立支援協議会などへの参加を検討していく。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			送迎時や連絡帳、個別懇談を通して保護者と情報共有を図り、課題についての共通理解を持つようになっている。		
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7			年5回程度、テーマを決め、保護者勉強会や座談会などのペアレント・トレーニングを行なっている。		
	保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7				
		33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		1		
		34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		1	定期的に個別懇談を実施したり、送迎時や連絡帳を通して保護者からの悩み相談に応じている。	
		35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6		1	父親の会の行事参加(お手伝いなど)の場や父親の会を開催している。	保護者会や茶話会の開催を検討していく。
		36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6		1	保護者から相談や申入れがあった場合は、早急に職員間で話し合いの場を設けて対応するようにしている。	

非常時等の対応	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		1		定期的に会報誌は発行しているが、頻度が少ない為、会報の回数を増やしたり、連絡ノートに活動の様子を知らせたりしていく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7			ボランティアをはじめ子どもに関わるスタッフには守秘義務に関する誓約書を書いてもらっている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			その子どもの特性にあった伝達方法で分かりやすく伝えるようにしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6		1	餅つきや節分会などの行事に地域住民を招待し、一緒に活動している。	
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7			定期的に緊急時のシミュレーションを行なっている。また、マニュアルの検討・改善を行なっている。	保護者には緊急時対応マニュアル等について周知できていないため、今後お便り等で説明や連絡をしていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		1	定期的に避難訓練を実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7			アセスメントで健康状態を把握している。また、緊急連絡簿に服薬や予防接種について保護者に記載してもらい、職員間で周知している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7			アセスメントで医師の指示書を確認し、マニュアルを作成している。また、アレルギー除去食の連絡、対応を行なっている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		1	定期的に安全衛生委員会を開催し、ヒヤリハットへの対応を検討している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		1	虐待防止に関する研修会に参加し、適切な対応ができるようにしている。	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5	1	1	身体拘束防止会議を定期的で開催している。		